

平成19年度事業報告書

- 1 建学の精神
- 2 法人の沿革

- 3 法人の概要
- 4 事業の概要

- 5 財務の概要

1 建学の精神

創立者の渡邊正助・富久子両先生が自らの体験から、職業教育の大切さを痛感し、「手に職のない女子が自立するには、技能、資格を身につけることが必要であるとの強い信念のもと、洋裁の技術を教えた」開校の精神に則り、職業人として自立できる「食と栄養」に関する高い知識と技能を教授すると共に、学生生活をとおして誠意、熱意、創意の心を培わせ、深い教養と、広い視野、さらに品性を備えた社会に貢献できる人材の育成を建学の精神としている。

2 法人の沿革

本法人は昭和22年の洋裁学院創立以来、昭和29年聖徳高等栄養学校設立、昭和38年の聖徳栄養短期大学開学、昭和52年に幼稚園の開設、聖徳調理師専門学校の特修学校への切替え認可、平成17年には短期大学を四年制大学へと改組、名称も東京聖栄大学として開学し今日に至っている。この間幾多の有為な人材を社会に送出してきましたが、平成19年に創立60周年を迎えたのを機に、法人名を学校法人オリムピア学園から、学校法人東京聖栄大学と改称し、新たな飛躍を期している。

- 昭和22年 4月 オリムピア洋裁学院開校。
- 昭和23年 10月 財団法人オリムピア学園設立認可。（文部大臣）
- 昭和26年 3月 学校法人オリムピア学園に組織変更認可。（東京都知事）
- 昭和29年 3月 聖徳高等栄養学校設立認可。（東京都知事）同年4月同校を栄養士養成施設として指定。（厚生大臣）
- 昭和32年 8月 校名を「聖徳服飾専門学校」、「聖徳栄養専門学校」に改称。
- 昭和35年 2月 聖徳栄養専門学校に調理師科を設置。調理師養成施設として指定。（厚生大臣）
- 昭和38年 1月 聖徳栄養短期大学の設置認可。（文部大臣）
- 昭和38年 3月 聖徳栄養短期大学食物科第1部（後に食物栄養科、食物栄養学科第1部と改称）を栄養士養成施設として指定。（厚生大臣）
- 昭和39年 3月 聖徳栄養専門学校の短期大学昇格に伴い同校栄養本科を廃止、同年4月「聖徳調理師学校」と校名変更。
- 昭和41年 4月 聖徳服装専門学校を「聖徳服装学院」と改称。
- 昭和52年 2月 聖徳服装学院及び聖徳調理師学校を専修学校として認可。（東京都知事）
聖徳服装専門学校、聖徳調理師専門学校と改称。
- 昭和52年 3月 聖徳栄養短期大学附属わたなべ幼稚園設置認可。
- 昭和60年 12月 短期大学食物栄養学科第1部専攻課程設置認可。（食物栄養専攻、食品科学専攻）（文部大臣）
- 平成 元年 4月 短期大学食物栄養学科第1部を同第2部廃止に伴い「食物栄養学科」と改称。
- 平成 4年 1月 服装専門学校廃止認可。（東京都葛飾区長・文部大臣）
- 平成 7年 12月 短期大学専攻科食物栄養専攻設置。（文部大臣）翌平成8年1月 学位授与機構長認定。
- 平成 8年 12月 調理師専門学校調理師専門課程専門技術科修了者に専門士の称号授与の課程認定。（文部大臣）
- 平成14年 11月 短期大学食物栄養学科食品科学専攻製菓・製パンコースを製菓衛生師養成施設として指定。（厚生労働大臣）
- 平成15年 5月 公開講座を葛飾区教育委員会と共催実施を締結。
- 平成16年 11月 東京聖栄大学設置認可。（文部科学大臣）開設平成17年4月1日。
- 平成17年 2月 健康栄養学部食品学科食品衛生管理者及び食品衛生監視員養成施設登録。（厚生労働大臣）
- 平成17年 3月 健康栄養学部管理栄養学科の栄養士養成施設内容変更承認。（厚生労働大臣）
- 平成17年 3月 健康栄養学部管理栄養学科の管理栄養士養成施設の指定。（厚生労働大臣）
- 平成18年 5月 放送大学と単位互換協定締結
- 平成18年 9月 聖徳栄養短期大学廃止認可
- 平成19年 6月 法人名を学校法人東京聖栄大学に変更

3 法人の概要

1) 設置する学校

東京聖栄大学

健康栄養学部 管理栄養学科
食品学科

聖徳調理師専門学校

調理師専門課程 専門調理技術科
調理師科

東京聖栄大学附属わたなべ幼稚園

2) 入学定員、学生数の状況

東京聖栄大学
健康栄養学部

	入学定員	収容定員	現 員
管理栄養学科	80名	240名	270名
食 品 学 科	80名	240名	166名
計	160名	480名	436名

(平成17年度開設)

聖徳調理師専門学校
調理師専門課程

	入学定員	収容定員	現 員
専門調理技術科	40名	80名	65名
調理師科	120名	120名	70名
計	160名	200名	135名

東京聖栄大学附属わたなべ幼稚園

入学定員	収容定員	現 員
300名	300名	273名

3) 役員、教職員の概要

理事8人

監事2人

教職員数

区分	法人本部	大学	専門学校	幼稚園	計
専任教員数		36名	7名	11名	53名
専任職員数	4名	23名	6名	6名	40名

< 平成19年度入学志願者数、受験者数、合格者数、入学者数 >

東京聖栄大学 健康栄養学部

学 科	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
管理栄養学科	80名	419名	407名	213名	103名
食品学科	80名	93名	91名	83名	51名
計	160名	512名	498名	296名	154名

聖徳調理師専門学校

学 科	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
専門調理技術科(2年課程)	40名	39名	39名	37名	35名
調 理 師 科 (1年課程)	120名	76名	74名	73名	70名
計	160名	115名	113名	110名	105名

東京聖栄大学 附属わたなべ幼稚園

募集人員	年少	年中	年長	計	入園児数
300名	園児数 74名	98名	101名	273名	273名
	新入園児内数 68名	27名	3名	98名	98名

< 参考資料 >

入学定員、学生数の状況

(平成20年5月1日現在)

東京聖栄大学

健康栄養学部

	入学定員	収容定員	現 員
管理栄養学科	80名	320名	349名
食 品 学 科	80名	320名	207名
計	160名	640名	556名

聖徳調理師専門学校

調理師専門課程

	入学定員	収容定員	現 員
専門調理技術科	40名	80名	49名
調理師科	120名	120名	60名
計	160名	200名	109名

東京聖栄大学附属わたなべ幼稚園

	入学定員	収容定員	現 員
	300名	300名	300名

<平成20年度入学志願者数、受験者数、合格者数、入学者数>

東京聖栄大学 健康栄養学部

学 科	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
管理栄養学科	80名	433名	420名	192名	92名
食品学科	80名	116名	113名	100名	48名
計	160名	549名	533名	292名	140名

聖徳調理師専門学校

学 科	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
専門調理技術科(2年課程)	40名	19名	18名	18名	16名
調 理 師 科 (1年課程)	120名	61名	59名	59名	58名
計	160名	80名	77名	77名	74名

東京聖栄大学附属 わたなべ幼稚園

募集人員		年少	年中	年長	計	入園児数
300名	園児数	94名	103名	103名	300名	300名
	新入園児内数	84名	27名	5名	116名	116名

4 事業の概要

本年は学園創立 60 周年の節目の年を迎えたのを機に、創立記念日の翌平成 19 年 6 月 1 日を期して、法人名を「学校法人オリムピア学園」から「学校法人東京聖栄大学」と改称した。大学にあっては、開学 3 年目を迎え、在学生の教育及び支援のさらなる充実を図ると共に設置する 3 校の教育環境の整備改善に努めている。わたなべ幼稚園においては、創立 30 周年を迎えたのでこれを機に、新たに園旗を制作するとともに、大がかりな施設・設備の改良工事を行って環境整備を行った。

また、財政については、17 年度財政再建計画を立て、20 年までに収支均衡を達成する中期財政計画が進行しており、19 年度までは大よそ計画通りに改善が進んでいる。

< 法人 >

学園創立 60 周年記念事業

記念式典のほか、主な事業は次のとおりである。

「60 年史の発行」

これまでの歴史を「50 年史とその後の 10 年」として CD と記念誌を上梓。

「創始者レリーフ作製」

創始者渡邊ご夫妻の遺徳を偲び、そのご功績を称え、レリーフを作製し、わたなべ記念館正面玄関ホールに掲額。

「大学祭イベント」

これらは、役員、評議員、教職員、後援会、同窓会、取引業者など多くの方からの記念事業寄付応募募金 1,400 万円余の浄財によって行うことができた。

法人名の変更

「オリムピア学園」 「東京聖栄大学」

役員改選及び理事長の重任

平成 19 年 11 月 任期満了に伴う学園役員、評議員の改選が行われ、理事長に福澤美喜男氏が再任された。

< IT 情報関係 >

全学園の情報処理システム、IT 環境の整備を継続。

LAN (第 期) 構築	(情報処理実習室更改) メールサーバー更改 PC 整備 プリンタ課金システム構築
大学学務システム構築	学籍、教務情報システム 教学関係のシステム化の促進を継続。

会計システム	バージョンアップ(ソフトウェア改訂)
専門学校	PC 整備

< 施設、設備関係 >

大学	1号館	4階 講堂照明設備改修
		2階 実験室 ドラフトチャンバー改修
		1階 トイレ、手洗所設備全面改修
	3号館	解体取壊し工事
	4号館	4階、5階 講義室 床張替工事
	各校舎	教室、机、椅子の継続的整備
教育研究用実験機器の充実		
専門学校	2号館	用度室 冷暖房空調設備・電気設備工事
幼稚園	厨房室 改修 内装工事、空調設備新設	
	園庭(グランド)改良工事	

< 大 学 >

自己点検・評価の実施

自己点検及び評価事項は、日本高等教育評価機構大学評価基準に準拠し、平成 17 - 18 年度を対象期間として実施することが、拡大教授会で決定され、教職員の協力のもと、自己点検・評価委員会による「報告書案」を平成 19 年 12 月作成、平成 20 年秋に発行する予定になっている。

学生教育活動への支援等

教育研修等

在学生(1年生)に対する実力向上試験および講座(補習教育)の実施

管理栄養学科 管理栄養士国家試験対策(全学年)

ガイダンス、講座開催、学内模試、学外模試

夏期宿泊研修 (1年次生)

国試対策特別補習 (2・3年次生)

臨地実習 (3年次生)

食 品 学 科 総括試験 (各教科課題提出、各学年)

フィールド研修<長野県> (1年次生)

食事情海外視察研修 (主として2年次生本年はタイ国)
インターンシップ開拓、維持(3年次生)

学生生活支援 マナー講座、リサイクル講座

学生の就職関係支援

新入生から最高学年である3年在学生まで卒業後の進路について各種指導・ガイダンスを行っている。

進路ガイダンス、就職ガイダンス、個人面接

模試・解説ガイダンス

特別講演会

パンフレット(企業向け)作成、求人依頼先の開拓

インターネットの充実、

入試関係

入試方法を多様化し、次の制度を取り入れ、志願者増を図っている。

指定校推薦、特別指定校推薦制度の新規導入

大学入試センター試験利用入試に二期制導入

FD活動

教員の資質維持向上のため、FD委員会で年度活動計画の策定、実施。

食品学科の再編成への取り組み

< 専門学校 >

自己点検評価の実施

私立専門学校等評価研究機構の専門学校等評価基準に準拠し、学校運営全般に亘る項目について、平成19年5月1日現在で点検調査を実施、報告書を平成20年3月に作成した。

将来課題

理事長の諮問委員会として、学園理事、教員、職員を構成員とする専門学校将来課題検討委員会を平成17年11月に設置し、今後のあり方を数次にわたり検討後、平成18年10月提出の将来課題報告書について、理事会で検討を重ねてきた。

学生募集方法も大学と切り離して専門学校独自のPR活動を導入し、その成果を期待したが、1年制課程、2年制課程共定員割れが続いているため、平成21年度から入学定員を40人減じ、縮小均衡政策をとることになっている。

< 幼稚園 >

在園児の保育内容の充実と共に、子育て相談・カウンセリングを行い、保護者、地域の方との連携を深めてきている。また子育て支援の一環として「通年の預かり保

育」や「幼児教室」を引き続き開設実施し、満三歳児の1クラス増の定員確保のための基礎作りを行った。

<職員研修>

職員の意識向上、業務の活性化をはかるため、加盟協会その他外部の研修会にも積極的に参加、また学内では9月上旬に全職員参加による職員研修会を実施、講演及びグループ討議を行って、各人の職員としての自覚を促してきた。職務、職場の実践の場で活かすことができるよう研修会を定期的を開催していく。

<生涯学習センター、公開講座>

社会人の自己啓発支援、地域社会との連携を図るため、本年度も東京都葛飾区教育委員会との共催も含め公開講座 9講座（大学 5、専門学校 4）を実施し、応募者数延べ386名（昨年413名）、参加者数延べ247名（昨年比28名減）となった。

センター登録者は1,461名、19年度新規登録者数188名。

幼稚園では食育について地域のご父母を対象とした本学教員による講演会を、定期的実施し、地域社会に貢献している。

このほか講習会等への講師派遣、特別講座数は41件となっている。

<広報活動の強化>

大学関係、オープンキャンパスの実施。専門学校は1日体験入学を実施。ホームページについては大学、専門学校各校紹介記事の充実を図り、幼稚園についても本格導入をおこなって募集活動に一層力を入れている。

大学、専門学校はオープンキャンパス、体験入学等の参加者数の増加、入学志願者数の増加に努めているが、大学は健康栄養学部二学科のうち食品学科が、専門学校は1年課程、2年課程共、志願者数・入学定員の確保は厳しい状況になっている。

<収益事業>

財政基盤強化のため、平成18年4月から収益事業として、廃寮となった旧学生寮の施設を不動産賃貸業者に賃貸を行い、引き続き財務の充実に努めている。

このほか、資産運用収入としては、利率のよい大口定期預金へ振り替えを行うなど、有価証券についてもきめ細かい運用を行い収益を倍増させた。また施設利用収入も地の利を活かした積極的な貸出しを行った結果、大幅な収入増を挙げるなど収入増に取り組んでいる。

5 財務の概要

「別紙 財務状況」に記載。